

SI熊本「夢を生きる就学援助」を終了して

1984年に開始したSI熊本「奨学金制度」が高等学校等の授業料無償化に伴い終了となり、代わって2010年にスタートしたSI熊本「夢を生きる就学援助」は、国際ソロプチミストのミッション(Best for Women)に沿って立ち上げたSI熊本独自のプロジェクトです。自身の将来の夢(職業)の実現のために、大学・短大・専門学校等へ進学を希望し、経済的支援を必要とする熊本市内の高校在学女子生徒(3年生)に入学時の準備金(一人20万円)を支援するもので、この準備金には、毎年行うチャリティー事業の益金を充当して参りました。

2019年、10年目の節目にあたり、また、国においては給付型奨学金制度拡大が行われたこともあり、目的をより女性支援に絞り込んだ新しいプロジェクトSI熊本「母と子の夢を拓く」を開始することが決定し、本事業は終了となりました。

毎年熊本市内29の高等学校(聾学校、盲学校を含む)に募集要項を郵送し、1校から1名学校長の推薦文を添えて応募していただきました。例年9~14校から応募があり、クラブにおいて厳選公平な委員会を開催し、5名以内の枠で選考しました。毎年熱心にご対応くださった各校の先生方にも感謝申し上げます。

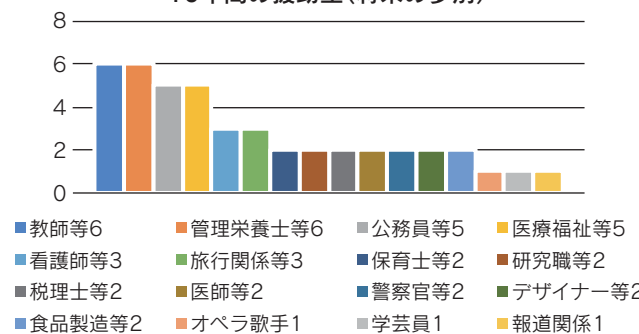
10年間で支援した女子高校生は45名、支援金は900万円にのぼりました。

10年間の援助生(学校別)



- 熊本商業5
- 第二2
- 必由館4
- 湧心館3
- 第一3
- 熊本農業3
- 信愛3
- 熊本西3
- 済々黌2
- 尚綱2
- ルーテル2
- 千原台2
- 慶誠2
- 熊本1
- 鎮西1
- 学園大付属1
- 東陵1
- 文徳1
- 熊本聾1

10年間の援助生(将来の夢別)



- 教師等6
- 看護師等3
- 税理士等2
- 食品製造等2
- 管理栄養士等6
- 旅行関係等3
- 医師等2
- オペラ歌手1
- 公務員等5
- 保育士等2
- 警察官等2
- 学芸員1
- 医療福祉等5
- 研究職等2
- デザイナー等2
- 報道関係1

残念!

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、私達が継続して援助してきた中田裕子さんの「タイアユタヤワットサケーオ養護施設の支援」と、月1回訪問してきた「国立病院機構再春医療センターつくし病棟訪問奉仕」が、今年度はできませんでした。大変残念ですが、早く感染が落ち着いて、支援を再開できることを祈ってやみません。

次期会長抱負



高野 文

この1年間コロナ禍で活動を自粛せざるを得ない中、私はSI熊本の仲間が自分たちの目的を達成するために知恵を出し合い、奔走し、やり遂げる姿を目の当たりにしました。会長を引き受けることは、私にとって大変な重責であり、不安でいっぱいです。しかし、今期で築き始めたことを形にし前進させることを目標に、日々学び、努力する所存です。皆様のご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

こんな方たちを探しています

詳しくはホームページをご覧ください

- 国際ソロプチミストアメリカ連盟・日本南リジョン賞 ●夢を生きる賞
- クラブ賞
 - 女性栄誉賞
 - 女性研究者賞
 - 社会ボランティア賞
 - 活動資金援助
 - ソロプチミスト日本財団賞
 - ドリーム賞
 - 学生ボランティア賞
 - 千嘉代子賞
 - 災害復興援助

お疲れ様でした(2020年7月~2021年6月)

- 理事 会 長 : 金井 朋子 理事(1年) : 清永 和子
会長エレクト : 高野 文 理事(2年) : 戸次 元子
副 会 長 : 牧野 智子
R.セクレタリー : 高野 文(併任)
C.セクレタリー : 鹿子木道代
トレジャー : 絹原 美加
A.トレジャー : 八木美枝子



- 委員長 プログラム : 塚本 敬子 広 報 : 硯川和歌子
財務・資金調達 : 西岡東綺子 ソロプチミスト日本財団 : 宇野 美穂
メンバーシップ・SOLT : 高橋 享子

よろしくお願いいたします(2021年7月~2022年6月)

- 理事 会 長 : 高野 文 理事(1年) : 牧野 智子
会長エレクト : 高橋 享子 理事(2年) : 清永 和子
副 会 長 : 金井 朋子
R.セクレタリー : 鹿子木道代
C.セクレタリー : 絹原 美加
トレジャー : 八木美枝子
A.トレジャー : 堀川 光江



- 委員長 プログラム : 塚本 敬子 広 報 : 硯川和歌子
財務・資金調達 : 金井 朋子 ソロプチミスト日本財団 : 宇野 美穂
メンバーシップ・SOLT : 西岡東綺子

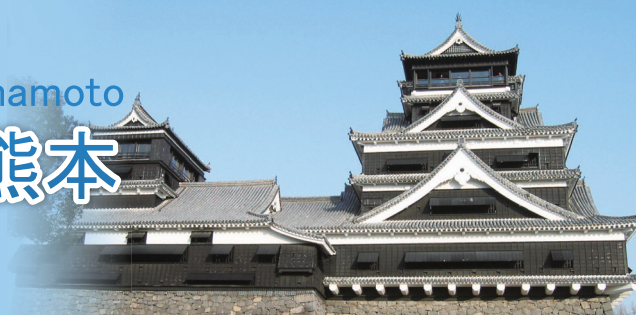


SOROPTIMIST®
Investing in Dreams

Soroptimist International of Kumamoto

国際ソロプチミスト熊本

広 報 誌 2020年7月 ▶ 2021年6月



会長挨拶



金井 朋子

5年前の熊本地震から復興しつつあった熊本は、令和2年7月豪雨で再び大きな災難に見舞われました。大きな被害を受けた人吉クラブやなうらクラブの力になりたい、コロナ禍や豪雨災害で経済的打撃を受けているシングルマザーの力になりたい、という会員の強い思いで今期をスタートしました。

ところがコロナ感染症は流行の波が激しく、毎月、理事会や例会が対面でできるか否かの判断にとて苦勞しました。なんとか安定的に例会を開催する方法はないかと模索し、会員の協力と努力により、冬にさしかかる前に ZOOM オンライン例会を取り入れました。オンライン上で例会が開けるようになると、画面上ではあっても会員同士が対面できることがとても嬉しく、月1回の例会を心待ちにするようになりました。おかげで、コロナ禍でも会員同士の繋がりが保つことが出来

て、私たちの活動に大きな弾みをつけました。

資金調達事業は例年のようなチャリティー事業はできませんでしたが、リジョンメール上に「プレミアムトマトまいひめ」の販売をご案内しました。南リジョンの会員の方々にもかなりの数を購入していただくことができ、来期のSI熊本「母と子の夢を拓くプロジェクト」の貴重な財源となりました。また、40周年を機に立ち上げた「母と子の夢を拓くプロジェクト」は、豪雨被災者枠を設け、11名のシングルマザーに総額126万円の支援を行いました。今後の会員増強を狙ったホームページリニューアルも着々と進んでいます。コロナ禍でもこのような活動ができたのは、ひとえに各委員会、理事会メンバーの努力の賜物と心より感謝申し上げます。今期の南リジョンのテーマ“小さな一歩に誇りをもって”にまさしくふさわしい年間だったと思っています。

この一年は、コロナ禍でクラブも大きな変化の年でしたが、様々な一歩を踏み出した年でもありました。次期は高野新会長の旗のもとに会員が一丸となって歩み、この難局をきっと乗り越えられると信じています。

2020年度 母と子の夢を拓くプロジェクト

SI熊本は、設立40周年記念事業として3年前に「母と子の夢を拓く」プロジェクトを立ち上げ、シングルマザーへの支援として、中学3年生のお子さんをお持ちの方への高校進学のための資金援助と、生活の向上のために資格取得を目指す方への支援を、女子高校生の進学支援「夢を生きる就学援助」と並行して行ってきました。しかし、昨年7月に県南を襲った未曾有の豪雨災害で被災されたシングルマザーに対して被災者枠を設けたこと、「夢を生きる就学援助」が10年の節目を迎えたことより、今年度から「母と子の夢を拓く」プロジェクトに一本化しました。

ひとり親福祉協議会の協力を得て募集をかけ、県南被災地を含む県下全域から53件の応募がありました。申請書からは、折りしもコロナ禍による社会や生活環境の変化がシングルマザーに対してのしわ寄せを生み、困窮が深刻化していることが強く感じとられました。

支援金の調達は、コロナ禍のために大規模なチャリティー事業が開催できませんでしたが、会員及び会員以外の方からの寄付とクラブ運営費の切り詰めにより115万円を準備する事が出来ました。

お子さんの進学準備金として10名(このうち被災者3名)、ご自身の資格取得のための支援1名、計11名のシングルマザーの支援を行い、また選外となった38名の方にもクオカードをお送りしました。なお、前年度に支援を受けた方より、「社会福祉士の国家試験に合格しました」との嬉しいお便りが届きました。また、今年度に支援した方からも「美容師の資格を得て、美容院開業の夢に向かって一歩踏み出しました」とのお知らせを頂きました。その他の皆様からのお手紙にも、親子ともども前に進む勇気をもらった、子どもの将来が明るい未来となった、などの感謝の気持ちが綴られていました。これらの言葉にエネルギーを頂き、次年度の活動へ繋げる思いです。

牧野 智子

私たちの活動をホームページでご覧下さい

<https://www.si-kumamoto.org/>

国際ソロプチミスト熊本

検 索

定例会合: 毎月第3火曜日 10:00~13:00 会場: ANAクラウンプラザホテル熊本ニュースカイ

発行日: 2021年6月30日

2020年度 顕彰事業(クラブ賞)

●夢を生きる賞

第1位 内野 早希 様

3歳の娘さんを育てながら、平日は保育士資格取得のために短大の幼児教育学科に通い、授業のない時は娘さんが在籍する保育園で、保育助手として働いておられます。

第2位 平林 由香 様

食物アレルギーのお子さんを抱え、調理師免許取得を目指して保育園で給食の調理に携わっておられます。

●輝く女性賞(2019年度までの女性栄誉賞)

くまもと県民交流館パレオ館長 藤井 育貴子 様

幼稚園教諭を経て育児サークルを発足され、熊本初の育児情報誌の創刊子育てネットワークを発足し、企画編集業務の会社を設立。その後、「熊本市男女共同参画センターはあもにい」の管理運営を開始し、その館長に就任。2018年より「くまもと県民交流館パレオ」館長および熊本市ファミリーサポートセンター長を兼務し、後進の育成にも取り組んでおられます。更に社会福祉法人「熊本県ひとり親家庭福祉協議会てとてとて」の会長としても活動され、私たちの支援事業の「母と子の夢を拓くプロジェクト」や「夢を生きる賞」の募集に関しても協力を頂いています。



【ソロプチミスト日本財団】

●災害復興援助

ひまわり亭災害支援ネットワーク 代表 本田 節 様

熊本県南部豪雨で、代表本田氏の経営するひまわり亭も甚大な被害を受けながらも、延べ 15,000 食を無償提供するなど、「食」を中心とした懸命な支援活動を続けられています。日頃から「食」を通じて地域と連携を図り、そのネットワークを活かして被災者に寄り添った活動を展開されています。

●活動資金援助

ロハス南阿蘇たすけあい 代表 井出 順二 様

熊本地震の時に南阿蘇村の住民を中心として立ち上げられ、災害のたびに重機を持って支援に駆けつける、全国でも珍しい重機ボランティア団体です。熊本県南部豪雨災害でも瓦礫撤去などの活動を行い、その徹底した安全管理の元に行う重作業は被災者の方々から高い信頼を得ています。

成功を祝うソロプチミスト賞 プログラム分野第2位「Take One Step賞」受賞

SI熊本「母と子の夢を拓く」プロジェクトはSIA「成功を祝うソロプチミスト賞」プログラム分野においてリジョン第2位のTake one step賞を受賞しました。コロナ禍により雇用環境が悪化し、より困難な生活状態にある母子家庭を援助できた事に加えて、昨年7月の人吉球磨地域の豪雨災害で被災した母子家庭への支援を行ったことが評価された結果の受賞と思われます。

越山 聡子



第35回 南リジョン大会 オンライン参加報告

4月18日第35回南リジョン大会は、本来であれば沖縄で開催の予定でしたが、コロナ禍の中、「オンラインで繋がろう南リジョンの和!」をスローガンにオンラインで行われることとなりました。ネットなど未経験の方にも双方向的に参加していただく為に、まず各クラブから数名がオンライン上に集まり、「お助け隊」が発足。県内クラブお助け隊研修会を経て、各クラブ内でWebexのダウンロードの仕方などを教えあいながら、リジョンの体験レッスンを経験しました。体験レッスンでは、チャットやグループセッションなど、数回にわたり練習を重ね、時にはトラブルに対処しながら会員一丸となって新しい取り組みにチャレンジしました。当日は記念講演やブレイクアウトセッション(おしゃべりタイム)があり、南リジョンのタベでは、事前に購入した泡盛など各自準備し、アトラクションを見たりと、自宅にいながら沖縄の風情を楽しみました。

鹿子木 道代

内野 早希 様 「夢を生きる・ 未来へつなぐ賞」受賞



当クラブのクラブ賞第1位の内野早希さんを南リジョンへ推薦し、応募者85名の中から受賞されました。



年次会合が行われました

リモート会議への取り組み

コロナ禍において会員同士のコミュニケーションを安全に図るために、リモート会議への早急な取り組みは必須のことでした。一言にオンラインに切り替えることは難しく、書面決議や、ハイブリッド会議(会場参加とリモート参加の両方を繋ぐ会議)を試みながら、できるだけ多くの会員が例会に参加できる方法を模索しました。Wi-Fi環境を整えることから始まり、LINEやZOOMアプリをダウンロードして練習を重ね、12月例会からはリモート会議に移行、今では8割近くの会員がリモートで参加可能です。練習の甲斐があり、4月に初めてオンラインで開催されたリジョン大会にも、Webexという新しい会議アプリを使ってスムーズに参加できました。実際に会えなくとも、パソコン練習やリモート会議を通して会員間の絆がより深まったように思います。



宇野 美穂

12月例会 ハイブリッド会議の様子

お取り寄せの輪を広げる

コロナ禍での資金調達事業が厳しい中、SI熊本「母と子の夢を拓く」プロジェクトの為に資金調達事業を立ち上げ、クラブのお取り寄せで人気だったプレミアムトマトまいひめ物語を熊本の旬の特産品のお取り寄せとして、南リジョンの資金調達ひろばに掲載していただきました。3月より販売開始したところ、その美味しさが評判になりリピーターも続出し、一時期お待たせするほどの人気となりました。趣旨にご賛同いただき購入された方から「美味しかった」とたくさんのメールをいただき、ご協力いただいた生産者様も喜ばれ、予想以上に大きな収益を上げる事ができて、また母と子の夢を拓くことができます。この事業に関わるみんなが笑顔の輪でつながったようでとてもうれしく思います。 宮岡 由香里



ソネングラス

資金調達第2弾として、南アフリカでハンドメイドされているソーラーランタン「ソネングラス」の販売を始めました。晴天時の直射日光での満充電で24時間以上柔らかい光が広がり、インテリアとしても防災用品としても役立ちます。SI熊本のメンバーが思い思いのセンスでデコレーションした「ソネングラス」達をご覧ください。



プログラム委員会 委員長 塚本 敬子

コロナ禍で対面での活動ができなかったため、「夢を生きる賞」「母と子の夢を拓くプロジェクト」の応募は、「熊本県ひとり親家庭福祉協議会てとてとて」のLINEを通じて広報させていただきました。予想を超える応募がありましたがSI熊本からクラブ賞を差し上げられる人数は限られているため、まだ候補者が決まっていない他のクラブへご紹介して支援へとつなげることができました。また、「夢を生きる賞」「輝く女性賞」の表彰式はオンラインで行いました。直接お会いできないとはいえお顔を拝見することができ、和やかで厳かで感動的な式となりました。



財務・資金調達委員会 委員長 西岡 東綺子

コロナ禍のもとでは大規模なチャリティー事業の開催が出来ず、資金調達に苦しんだ1年でした。そんな中、例会で培ってきた「お取り寄せ」のノウハウを生かし、南リジョンの資金調達ひろばに、熊本の旬の特産品のお取り寄せ第1弾として「プレミアムトマトまいひめ物語」を掲載したところ、予想以上の収益を上げることができました。第2弾には「ソネングラス」を販売、今後も新たなお取り寄せを掲載する予定です。



メンバーシップ・SOLT委員会

委員長 高橋 享子

今年度は、新しい会員をお誘いするイベントを開くことも叶わず、厳しい1年となりました。そこで、現在の会員の絆を深め、今まで以上に和やかで魅力あるクラブを目指して「バトントーク」を始めました。1冊のノートにエッセイを綴っては次の会員にバトンのように繋げていく試みで、メンバーの新たな一面や思いを知ることが出来つつあります。

また、会員の絆の一つの形として、手作りのバッグを委員会より会員全員にプレゼントしました。



広報委員会

委員長 硯川 和歌子

コロナ禍で委員会活動がままならない一年でした。チャリティー事業をはじめ様々な行事も中止となり、取材していない!写真が撮れてない!という焦りばかりがつのりました。そのような中で11月例会で委員会別写真撮影ができたことは奇跡です!!

また、今期は広報活動の強化を図るべく、ホームページのリニューアルを検討しました。「見やすく明るい」をモットーに刷新したH.P.をお楽しみに!!



ソロプチミスト

日本財団委員会

委員長 宇野 美穂

令和2年7月に起きた熊本県南部の豪雨災害の被災地へ直接赴く機会を得、被害状況を実際に目にする事が出来ました。そこで今年度は、被災地で精力的に活動されている2つの団体をソロプチミスト日本財団へ推薦しました。

